



おおいた県の
「ひじまち」っち
知っちゃん？

この本の舞台は

大分県速見郡日出町という小さなまち。

ご存じない方も多いと存じますが、

このまちで暮らす人々

ちよつと羨ましくなるくらい、

幸せそうなんです。

派手じゃないけど、温かい

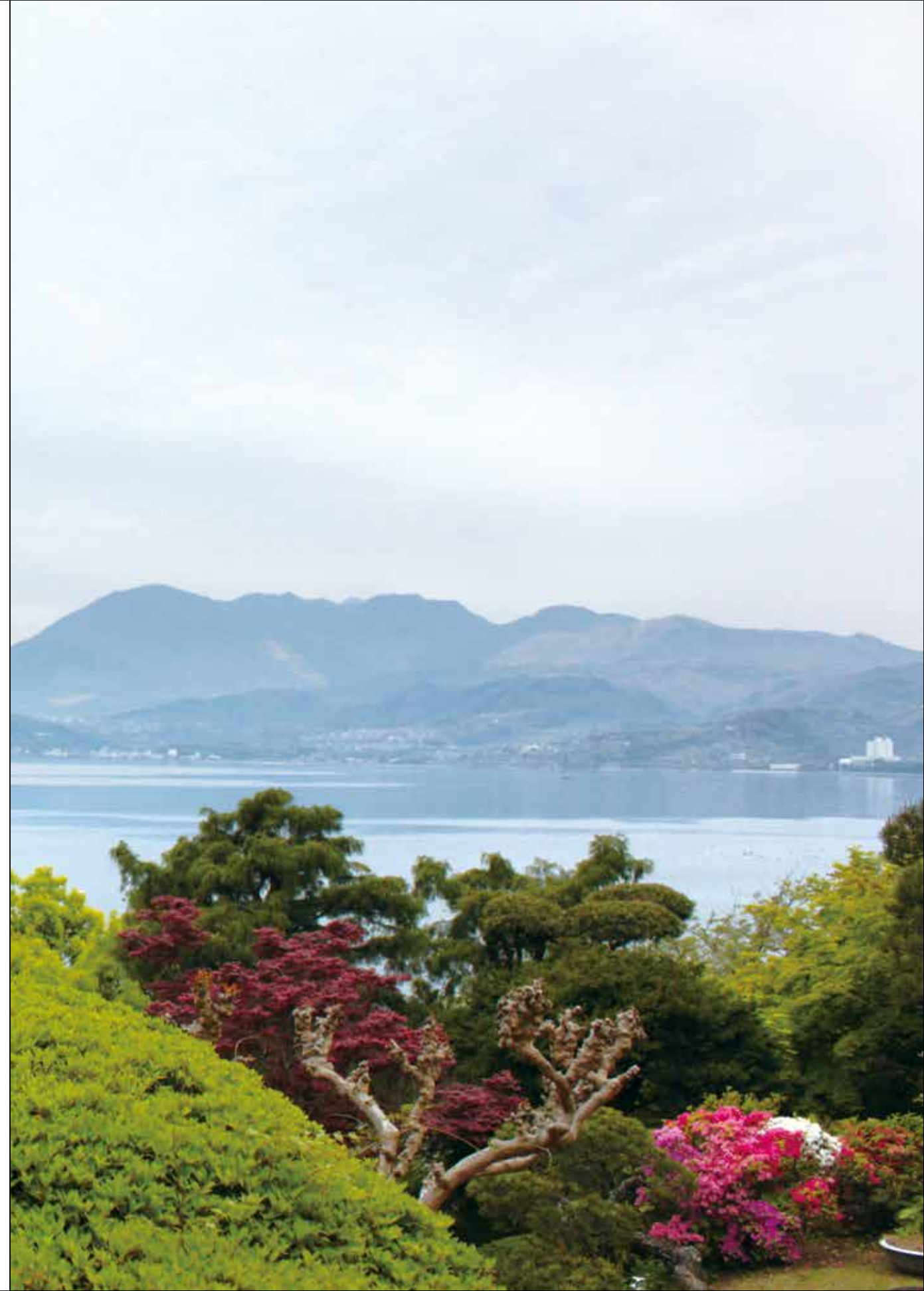
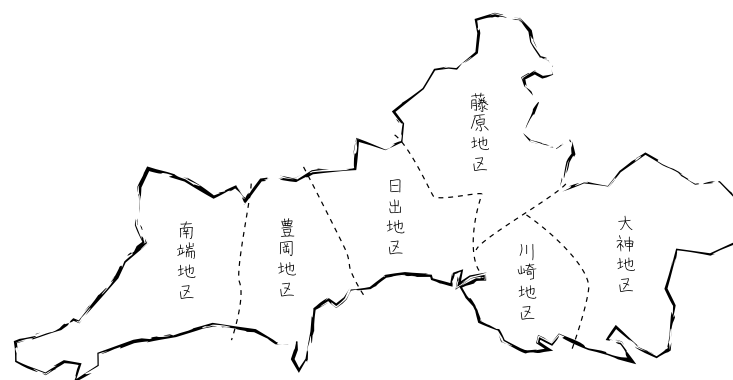
おおらかでのびのびとした人たちの

幸せの理由をちよつとずつ

探っていきたいと思います。

目 次

- 02 はじめまして、日出町です。
- 04 ひじまち歩き
- 08 特集1 お接待
- 20 ひじまち写真館
- 24 特集2 水とともに
- 36 ひじ産イロイロ 第1回 まちのパン屋さん
- 42 お母さんの手仕事 第1回 手ぬぐい帽子
- 44 特集3 ひじ暮らし 日出のまちとの向き合い方
- 56 トピックひじまち たこ天神伝説 ～ザ レジェンド オブ タコテンジン～
- 58 アクセス
- 60 ひじ暮らし、考えてみませんか？
- 62 日出町 MAP



はじめまして、 日出町です。

九州は大分県の北東、国東半島と呼ばれる
丸く突き出た半島の付け根にある、
人口2万8千人ほどのこじんまりとしたまちです。

海と山に囲まれたこのまちは、
自然豊かで暮らしやすい、
どちらかというと地味なまち。
高いビルのような都会的なおいはありません。
ここに吹く風は潮と木のおいを
まちの人へと運びます。

「田舎」というほどでもないけど、
普段から自然を感じる。
「都会」過ぎないからこそ、
暮らしを愛せる。

派手さのない何気ない日常の中に、
まちの人たちが普段口にしない
まちの魅力が詰まっています。
これからまちの人たちの暮らしぶりを
少しずつ紹介したいと思います。



鬼門櫓の瓦には、木下家の正式な家紋として、「抱き沢瀉」が使用されている



ており、当時の面影を残す建物がそこかしこに見られます。

また、町の図書館「萬里図書館」や、平成25年に復元を終えたばかりの「鬼門櫓」が並んでいます。

鬼門櫓は、明治6年の廃城令後、日出城内で唯一残った櫓です。元



白壁が連なる道、県の文化財である藩校跡「致道館」を通り、広い坂道を下っていくと、現れたのは、別府湾を望む景色でした。

櫓内は資料室になっており、見学可能。時を遡り、当時の様子を感じられる空間になっています。

は本丸の北東（鬼門）にあった櫓で、災いを避けるために建てられたと云われています。また、鬼門を忌み嫌い北東の隅を欠いた形状のため、別名隅櫓とも呼ばれます。

城址に建つ小学校（左）と二の丸館（右）。白壁が美しい通り



ガイドさんと歩く

ひじまち歩き



ようこそいらつしやいませ、日出町へ。
今日は皆様を日出の城址周辺へ案内したいと思います。
さあ、行きましょう！

ガイド歴3年の赤野さん



「ひじ まち歩きガイドの会」とは…

心からのおもてなしと、参加者の皆様との交流を深めるため、まちのことを学んだガイドが、分かりやすくお伝えします。ご要望により巡り方が変わります。おすすめコースは日出城址をぐるっと50分、的山荘でゆったり20分のコースです。

（※予約制。料金は無料ですが、ガイド1人当たり1,000円の交通費をお願いしています）



待ち合わせ場所の二の丸館は、日出町観光案内所があり、土産・喫茶・ギャラリーが併設されている

学問の歴史を感じる
二の丸通りへ

江戸時代は城下町だった日出町。今から400年前、徳川家康から三万石を与えられ、初代日出藩主となった木下延俊が、慶長7年に日出城を築城しました。現在、城址には日出小学校が建っています。

小学校の正門付近には、日出町にゆかりがある、帆足萬里と瀧廉太郎の銅像が並んでいます。

帆足萬里は豊後三賢人のひとり、江戸時代後期の儒学者・教育者として多くの子弟を育て、私塾には千人ほどの教え子がいたと云われています。

名曲『花』で知られる音楽家・瀧廉太郎の祖先は、代々日出藩の家老などの要職にあった家柄でした。

二の丸通りは元々、家老、藩主の親戚などが住んでいたと云われ

日出城復元図。当時の様子と照らし合わせながらまちを巡る



豊後三賢人(大分県の三大学者)のひとりである帆足萬里(左)と、日本最初の西洋音楽作曲家ともいわれる瀧廉太郎(右)





まち歩きには
ロマンを

三の丸通りには、大正時代初期、馬上金山と呼ばれる金山で金鉱を当てた成清博愛が建てた豪邸「的山荘」があります。

約3670坪の敷地内には、凛とした風情ある借景庭園があり、来客を喜ばせてくれます。

「歴史やお城に詳しい人が観光客に多いですね」と、赤野さん。

まち歩きの参加者は、福岡をはじめ、東京や大阪からも多いそうです。

日出町の歴史を学ぶ「致道館塾」で、塾長や塾生に褒められる

的の山荘の靴脱ぎ石。京都から船で運ばれた鞍馬石は、当時の繁栄ぶりが偲ばれる



うちに、いつの間にかガイドの一員になったという赤野さん。参加者に昔のロマンを感じてもらえるよう「参加者が歴史的背景を具体的にイメージしやすいように説明している」そうです。

大サザンカは中学校内を通る道沿いにある



1時間半歩いて、樹齢40年以上の大サザンカがある中学校の敷地へ。サザンカは町花であり、晩秋から可憐な花が咲きほころびます。

コースを一周すると、「二の丸館」に到着。歩き終えた体を癒しながら、のんびりと買い物や喫茶を楽しむことが出来ます。

いかがでしたでしょうか、「ひじまち歩き」。皆様の訪れを楽しみにしています。

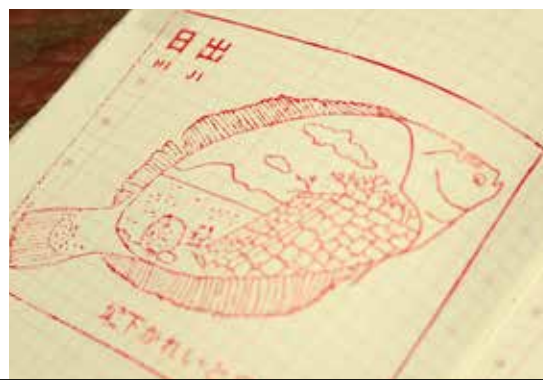


「二の丸館」内のお土産コーナー



ひじ まち歩きガイドの会

参加申し込み・お問い合わせ 日出町観光協会
住所：日出町 2612-1
電話：0977-72-4255
受付時間：9:00 ~ 17:00 (年末年始を除く)



別府湾の絶景が望める城下公園。散歩やウォーキングの休憩場としても人気

雄大な自然の景色を

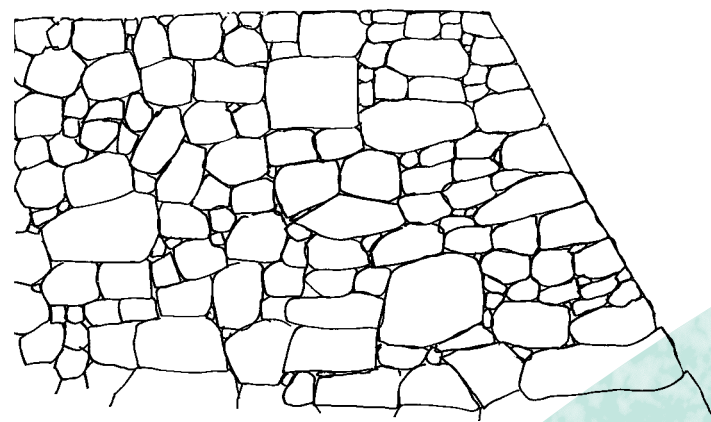
日出城址の周りをぐらりと巡る道沿いにも、様々な歴史の面影が隠れています。

緑の豊かさ、自然の美しさを感じることが出来る憩いの場「城下公園」には、こんな詩が刻まれた石碑があります。

湯けむりのたちのぼる町 近く見え城したの海 蒼くすみわたり

青くて大きな空と海、遠くには白く立ち昇る別府の湯けむり。公園からは、まさしく詩そのものの光景が望めます。

また、天に向かって高らかにそびえる城址の石垣は「穴太積み」と呼ばれる自然石を使った野面積み



みの技法で積み上げられており、そのダイナミックさには、訪れる人も目を奪われることでしょう。

おこぼ様の前掛けは「おちょちょ」
「おとちょ」と云うのだそう

「お接待^{たいたい}」は真言宗の開祖、弘法大師空海に對する信仰行事で、旧暦の3月と7月の21日に弘法大師の像を祀^{まつ}り、近所の人や子どもたちを家やお堂に招いてお菓子やおもちなどをふるまうという風習です。

日出町には弘法大師を「おこぼ様」と敬い、石像や巻物を祀り、お接待を行う所が数多くあります。

お接待の基礎になったのは太子^{たいし}信仰であると言われています。太子とは、民衆に恩恵を与えるため訪れる遊幸^{ゆうこう}の神々まればと。古代、太子の訪れを期待し、厚くもてな

することによつて幸せをつかもうとする人々の心が仏教と結びつき、旅僧の弘法大師像に重なつたものとも云われています。

お接待の日、子どもたちはお参りするともらえるお菓子を目当てに、おこほ様を祀っている家々をはしごします。

今年のお接待は4月30日の火曜日。晴天続きだった春の陽気から打つて変わつて、雨が降つたり、止んだりの1日でしたが、学校が終わる昼過ぎから、あちこちでお接待の準備が始まりました。

特集 1
お接待

～お接待の楽しみ方～

皆さんが大切になっている
おこぼ様にきちんとお
参りする
お賽銭を準備
歩きやすい靴・服装で
頂いたお菓子やごみを
入れる袋を持参
地域のひととのコミュニ
ケーションを楽しむべし



追っかけレポート!!

お接待初体験
編集スタッフ



右上から時計まわりに、安部宇美ちゃん、岩尾菜央ちゃん、内藤小菜美ちゃん、古川菜ちゃん

4月30日火曜日。今日は待ちに待った「お接待」の日です。豊岡小学校は4時間目まで。急いで帰って午後1時30分。そこから和製ハロウィンとも言える子どもたちの一大イベント「お接待」がスタートです。

今回、お接待の仲間に入れてくれたのは、豊岡地区に住む小学5年生の女の子。安部宇美ちゃん、岩尾菜央ちゃん、内藤小菜美ちゃん、古川菜ちゃんの仲良し4人組。さすがに女子4人も集まると女子会さながらのかしませ。普段は静かな町内に楽しそうな声が響き渡ります。

当日の空はあいにくの雨模様。傘を差しながらのお接待はちょっと大変ですが、子どもたちは全く気にしていない様子。スタートした途端、走り出す小さな戦士たち。しよっぱなからパワー全開です。ちよつと待って...

お接待で出されていたお菓子は「かっぱえびせん」「焼きとうもろこし」「サッポロポテト」など。昔ながらのお菓子を想像していたのですが、現代子が好きそうなスナック菓子が多く、今では「おまんじゅう」や「最中」を喜んでくれる子どもは少なくなつたとか。時代は変化してるんだなあ。



行く先々で、撮影中の立派な大人である私にも「お菓子を持っていきよ」と子どもたちと同じ量のお菓子が手渡されます。遠慮すると「いいからいいから」と、人懐っこい笑顔で微笑む地元のお母さん方。なんだか気持ちがほっこります。

辺りの様子を伺っていると、雨の中、自転車でまわる子ども、友達とのんびり歩きながらまわる子ども、お母さんと一緒に車でもわる子どもと様々です。年の頃は歩き始めたばかりの小さな子どもから、小学校高学年くらいまでがほとんど。さすがに中学生ともなると皆恥ずかしがってなかなか参加しないのだとか。



雨の中、お接待の日



「〇〇ちゃん、もうあそこ行っ
た？」あっちにもあったよ〜と、
子ども同士の口コミで情報はどん
どん広がります。「宝探しみたい
で楽しい！」と言う宇美ちゃんの
言葉にも納得。

そう言えば遠い昔、遠足のレク
リエーションで「謎解きゲーム」
をしたっけ。あの時はワクワクし
たなあ…。などと、しみじみ郷愁
にかられている暇はございませ
ん。少しでも立ち止まると、4人
は既にはるかかなた。それもそ
のはず、大抵のところは3時頃
には早々に店じまい。子どもたち



としてはここ1時間半が勝負どこ
ろ。いそげいそげ。

結局全部で11件訪問し、気付け
ば時刻は午後3時。用意されたお
菓子もきれいに無くなって、お母
さんたちは片付けに大忙し。女子
チームの大きなお菓子用バッグも
はちきれんばかりにパンパンで
す。さて、あとは帰って皆でいた
だいたお菓子を食べながらお話し
ようか。

宇美ちゃんのお家にお邪魔し、
「お疲れさま〜」とジューズで乾杯。
皆でお菓子をほお張りしました。

2年前に東京から大分県に越し
て来て、お接待はもちろんのこと、
同行取材も初体験の私の緊張など
吹っ飛んでしまうほど、あつとい
う間の楽しく貴重な体験でした。
お接待を通じた交流も数少なく
なってきたいるようですが、永く
受け継がれると良いなと思います。
豊岡地区の皆さん、ありがとうございます！
にしこ



たいへん
よんでき
ました

お接待を伝える人々



めがね菓子をくるるのが
ありがたかったんじゃあ

松本伊勢松さん

松本伊勢松さん。生まれは大神の秋貞地区です。1941年、海岸沿いの秋貞地区を始めとする数地区が海軍に強制的に買い上げられた為、そこに住む人々が集団で少し山側の原山地区に移ってきました。隣同士だった家々も、少し離れた場所です生活することになりました。しかし、お接待の日はその地区ごと集まり、お菓子をふるまうのです。

— お接待は楽しみでした？

今年93歳になる伊勢松さんに、昔の思い出話を聞いてきました。

伊勢松さん(※以下「伊」と表示)「ああ、おこぼ様は恵んじくるからな。おこぼ様の日というか、お接待もらいの日となつちよる」

— へえええ。

伊「そいから、いやもらいちゃうてな…」

— い、や？

伊「いやもらいちゃうと、子どもの悪い奴はな、何べんも人に隠れち、もらいにいく奴がある(笑)。そういう悪いことをするのもおるんじや」

※いやもらいとは、いやごと(人が嫌がること)という方言をもじり、何度もらいにいくこと

— 昔は、お賽銭をせずに貰えたのですよね。

伊「昔はただ貰ろうちまわるだけで、『こらもう、いやもらいにきたやろうが』と怒られよった



(笑)

— へえええ(笑)。伊勢松さんは怒られましたか？

伊「わしやあ、見らると、何かしら悪いから、いやもらいしたことねえ。いやもらいするものがありよった。それでもおこぼ様は責めんで『よしよし』ち言うち、お接待くれよった」

— なるほど。伊勢松さんが小さい頃は、学校帰りにお接待がありましたか？

伊「あんなあ、遅う出しよったから、家に帰ってカバンおろしち、わざわざ袋もらつち、それからお接待もらいに行きよった。今は学校帰りだとお菓子がもうなかつたりと、あんまり子どもに容赦せんからなあ」

— どんなお菓子が好きでしたか？

伊「ふきよせちゅうのがあって、良いお菓子じゃけどな。それよりも、輪の菓子をくるるほうが、ありがたかったなあ。はははは」

— めがね菓子ですね!!!

伊「ずうつつないで、輪をこしらえよった。それを掛けて、ひとつひとつむしりよって食べよったんじやわ。ははは」

奥さん(※以下「奥」と表示)「こどもだから、遊びじゃわあ」



— 輪を作るのは、お家に帰ってからですか？

伊「じゃあ。もう絶対に回りがら食べん、袋いっぱいもち帰つちから、こらすのがたのしみのひとつじゃったなあ」

— そうなんですね。

伊「歩きながら食べんで、走つちもらうだけじゃ。はははは」

— お接待はずつと受け継いでほしい風習ですか？

伊「もうこつちが頼んでも、何百年も続いているこつちやから、そりやもうやっぱ、日本中あるものじゃから、弘法大師の徳というのは大したものじゃなあ」

— そうですね。

ただ、その風習が地域によつては薄れていつて。

奥「今の若い人たちはね。こころへんに越してきた人たちは知らなかつたみたい」

伊「この付近で、お接待やむるという者はなかうと思ふな。おこぼ様はとにかく皆にお接待するんじやからなあ。そりやもう、おこぼ様を祀つちよりやあ、お接待

を出しちゃうな。おこぼ様の日じゃない、お接待の日ってなつちよるな(笑)」

ご自宅にはおこぼ様が二体います。そのうち一体は、奥さんが若い頃に四国から持ってきたおこぼ様とのことです。

伊勢松さんは言います。「わしの守りのおこぼ様じゃ」

伊勢松さん、奥さん、ありがとうございました！

伊勢松語録

- ・貰ろうちまわる…貰ってまわること
- ・出しちゃうな…出してあげない
- ・くるる…くれる
- ・見らるる…見られる
- ・じゃあ…Yes
- ・こらす…こしらえる
- ・やむる…やめる



おこ様がこの家を
守ってくれちゃん

工藤悠紀子さん・久美子さん

クッキーにおせんべい、あめ玉にスナック菓子、時には小さな大根と、毎日違うものが供えられているおこ様。色鮮やかな花に埋もれて、顔が見えないほどです。おこ様の手入れをしているのは、工藤輪業の工藤悠紀子さんと娘の久美子さんです。

「うちのお父さんがこの店を始めた頃からはあるはずやけん、もう70〜80年かな」というのは悠紀子



さん。毎朝、5時半に起きて身支度を整え、お店の前の通りに面したおこ様の花の水を替え、お菓子を供えます。「クセなんやろうな。『今日は忘れちゃった』つちことはないなあ」。悠紀子さんがおこ様の花を替え、お菓子を供える仕事を受け継いで約20年。それまでは、今年101歳になる悠紀子さんのお母さんがお手入れをしていたそうです。「母親の姿を見よったけんか、当たり前のことなんよね」。

「うちのおこ様は派手なこと、楽しいのが好きなんよ。だから、裏に置かんて表に出すし、前掛けも赤やら華やかなのを定期的に替えようけんな」。埋もれるほどの花に囲まれているのはそんな理由からだそうです。

「1年に1度お風呂の日もあるんよ」。通りに面しているというようにもほこりが積もってしまうため、自宅のテーブルに上げてきれいに洗って、前掛けを付け替えます。

工藤悠紀子さん(前)と久美子さん(奥)



町内のスーパーではお接待前には大きな袋でお菓子が販売される



悠紀子さんと久美子さんが日常のこととして、お世話するおこ様、訪れた人から「このおこ様はにっこり笑っちゃうな」と言われるそうです。悠紀子さんは「他のおこ様、あんまり見たことないけん分らんやけど、そう言われると嬉しいな」。

「毎日きれいにお花が上がったおこ様、手を合わせんと前を通られんわ」と、手入れ途中の悠紀子さんに声をかけてくれるご近所さんもあるそうで、おこ様を通じて、多くの人と出会えるのも楽しみのひとつだそうです。

「ここは小学校と中学校が近くにあるし、お接待の日は毎年たくさんの人が来るんよ」

キロ単位で買ってきたお接待菓子を持ち帰りやすいように、小分けにするのは娘の久美子さんの仕事。お接待が近くなると、スーパーに買い出しへ出かけ、夜な夜な小分け作業を行います。「全部2個

ずつ入れんといけんって、おばあちゃんに教わったんで、何種類かを2個ずつ」と言う久美子さんは、昨年700個の小分け袋を作ったそうですが、見事に無くなりました。「お接待も正直言うとお大変やけど、お祭りやけん。おこ様がこの家を守ってくれちゃんと思っちゃん」と悠紀子さん。

お接待の日、学校を終え、次々とやってくる子どもたちに「お参りしてなあ」と声を掛けるふたりの手は休まる暇がありませんでした。



SUZUKI





■ あめ

定番のあめ。お接待の途中に口の中やポケットに入れる子多数。



■ゼリー

色とりどりのゼリーは、見た目にも楽しい気分にさせてくれます。



■ チョコレート

入ってると嬉しいチョコレート。持ち帰るときに溶けないように気を付けて。



■ ふがし

子どもは持ち帰って、お父さんやおばあちゃんにあげちゃうそうです…。

おせつたい菓子



■ 栗まんじゅう

子どもと一緒に訪れるおじいちゃんおばあちゃんたちに人気。



■ ふきよせ

もち米ととうもろこしで出来たふんわりとしたお菓子。甘くてしょっぱい不思議な味。



■ めがね菓子

伊勢松さんが繋げて遊んだめがね菓子。小麦粉・砂糖・水あめで出来た素朴な味。



■ かれい最中

日出町名産の城下かれいをかたどったかれい最中。見た目も可愛い。



地域の人が交代でお接待当番を担当する

こういう場所で 伝えられるんやろうな

おせつたいの皆さん
大神下後班の皆さん

畑の脇の小道を抜け、竹や木の枝が迫る山道を少し登ると、御観の音堂と呼ばれる観音様のお堂があります。お堂の中でお茶やお菓子を広げ6〜7人の地域の皆さんがおしゃべりをしながら、お接待に訪れる人を待っています。お堂の前で立ち止まる人を「おこぼ様は奥よ。先にお参りしてね」とご案内。「雨の中、いらっしやい」。親子3代で訪れたお客さんにお菓子の入った小皿を手渡すと、傘を置いた女の子は、持ってきた袋にざらざらざら〜とお菓子を滑り込ませます。その様子を眺めながら、嫁いで来て65年という佐藤ミツさんは「私がお嫁に来た時から、この御観音堂でお接待をしようとしたわ。昔はお接待の後、ここで男ん衆がお酒飲みよった

わねえ」と懐かしそうに話します。お接待の思い出話から話は弾み、「人に良くしろ、人にふるまうのは自分のためやっ」とお姑さんにも言われたわ、「小せえ頃、ものもらいができたら御観音堂に來いっていわれよったわ」など、集まった人たちが、それぞれに伝え聞いた教えや地域の昔話を次々に話します。



「お皿は返すのよ」。昨年、家族で引っ越してきたというご婦人も、ご近所の奥さんにお接待のルールを教わっていました。こんな何気ない時間に地域のことが受け継がれているようです。



4



2



3



7



5



6

旧庁舎南側のグリーン
カーテンで取れたゴー
ヤ（にがうり）です。
自由に、お持ち帰り



1 城下の海に大漁旗が映えます 2 お茶を飲み終えると現れます 3 そうめんは右から流れてますよ 4 港の市場、朝市もやってます 5 リヤカーいっぱい魚、乗せちゃんけん 6 役場でも豊作です 7 ライオン広場...? いいえ、日出町役場です

1



13

⑧お城の跡地の学校で学んでいます ⑨春の陽気の中、皆さん
ご機嫌 ⑩教えてくれてありがとう ⑪町内にはかわいいモチー
フがいっぱい ⑫え〜、竹細工の指導中なんですがね ⑬日
出土産にいかがですか？ ⑭大通りを曲がると、こんな光景が



12



8



14



10



11



9

特集2

水と暮らし



上：十三子さん手製の露の炒め物は、ご家族のお気に入り
中：蔵には恵比寿様の鍍絵
下：神様に捧げる水は、無色透明な湧水を

暮らしに欠かせない水。
私たちは日々、水の恩恵を受けながら暮らしています。
水道が今のように普及する前、
川で洗濯をし、風呂に料理にと、
使う水を汲みに出かける毎日でした。
そんな暮らしを「おとぎ話のようだ」と
思う人もいます。
水に集まる人々が紡ぐ物語は、今もなお続きます。
人と人との会話。そして、神様への祈り。
絶え間なく湧き出る、水とともに暮らす人たちの
物語に触れてみましょう。

23歳の頃に現杵築市(旧速見郡)山香町から豊岡にある山田地区の農家に嫁ぎ、外では農作業、内では炊事と、水とともに働いてきた村井十三子さんに、若かりし頃の暮らしから、水とそこに映るご自身について聞いてきました。

山暮らしならではの

十三子さんは、棚田が広がる山間の地域に住んでいます。
家の近くにはコンコンと清水が湧き立つ山田湧水があり、機械で汲み上げ、家庭用の水として利用しています。
自然豊かなこの地域には猪などの野生の鳥獣が現れるため、裏山に罾を仕掛けています。
「今日もさつき、『おばちゃん、向こうの山で猪二匹獲れたんでー』って言うてから。『はあああ、ほんとかい』って言っちゃ」
水浴びや泥浴びをし、水を好むという猪ですから、この辺りの山々では尚更現れやすいそうです。
都会ではありえない、山暮らしならではの会話です。



農家の朝

村井家は農業で生計を立てていました。

牛馬耕が主流だった頃、山羊やうさぎ、鶏とともに牛馬を飼い、田起こしや代掻きしろかきを行っていたそうです。

米に麦にミカンにと様々な農作物を作り収穫しては、夜明け前にリヤカーや馬車を使って、一家の

男たちと別府や亀川の市場へ。その帰り道、リヤカーを預け、「私は朝の一番汽車が真横を通ると一緒に、競争しちゃった」と笑います。

家路に着いたら疲れた体を休めます。早朝からの作業のため、女たちで行う家事は分担作業。「ばあちゃんがご飯を用意してくれていたな」と、お互いが助け合っていた様子が垣間見られました。

水車小屋の音

山田湧水の水汲み場の付近は、その昔、小道の横に深い谷があり、間を流れる小川の上に、大きな水車小屋があったそうです。もうひとつ、小高くなった丘の上にも水車小屋があり、米つきや粉ひきに利用しました。

「ゴトンゴトンと音たててな」川の流れによって水車は回り、歯車の動力で杵が動きます。自然の力をふんだんに利用した水車はもう残っていませんが、水車小屋に集まり、皆と作業をした思い出は、十三子さんの心にしっかりと残っていました。

たらいを抱えて、川で洗濯

家の脇にある木のトンネルをくぐり抜け、森に囲まれた小さな農道の先にある水源へ水汲みに行っていた十三子さん。水道も機械も



ない時代、長い竿に2つのバケツを天秤のように括りつけ、肩に担いで、汲んで移してまた汲んでと、毎日毎日、何度も往復をしました。「分厚いバケツでな」と、両手で体の半分くらいの大きさを表します。「私は背が低いけ、バケツが大きかったなあ」

水を汲むと重さは相当なもの。力を要する仕事に戸惑いながらも、毎日欠かさず、暮らしのために働いていました。



十三子さんの
家族の一角
“ロッキー”



家の前にある溝では、「川で洗濯」をしていたそうです。村井家では溝のことを「川」と呼んでいたくらい綺麗な水が流れており、嫁いで間もない頃、家の前の川で水を汲んでこいと言われたときは、「そこ、川っちいうんかい」とびつくりしたそうです。「山香は川っちいうたら大きい川のこというからなあ」

「水に慣れる」という言葉があるように、新しい家族のもと、働きながら環境に慣れてゆく楽しみを見つけてきた、と微笑みます。

水神様へのお参り

毎年、十三子さんの家では米を作ります。

「水がいいからおいしいよ。綺麗な水のお米」

初夏の田植えの時期は、息子さんたちと力を合わせます。

田んぼの傍には、長年お世話に

なっている水源があり、そこには「水神様」という大切な水の神様がいます。十三子さんが嫁ぐ前から、水や家族を見守ってくれています。

ここへ来たら必ず、湯呑みの水を替え、庭に咲いたお花を生けてお参りをする十三子さん。畑仕事の合間に、家族のこと、そしてお孫さん2人の将来をお願いしてきたそうです。願いごとの内容を知ったお孫さんが、「『えーばあちゃん本当?』ち、涙しよったな」と、懐かしみます。

「皆、健康で無事であるようにちな。田んぼに行くたびにお参りするけ」

森にいる鳥の鳴き声の下、十三子さんは続けます。

「まあ、お守りしちくれよっからな、山田の水を」

水神様に守られ、その恩恵を受ける家族、水とともに暮らす大切さを教えてくれました。



町民の飲み水のほとんどが、湧水でまかなわれている日出町。
ミネラルが溶け込んだ湧水を、多くの人が利用出来るようにと、水汲み場が設けられている場所があります。
朝から夕方まで、空の容器を手にした人たちが賑わう水汲み場は、町民のみならず町外の人たちにも愛されています。
今回は、日出町の水汲み場の代表ともいえる、山田湧水と観音の水にスポットを当ててみました。

自然のミネラルが
溶け込む湧水

水汲み場に行こう！

地域の人を中心となって、水神様に五穀豊穡の願いと水に感謝する「水神祭」があります。年に1度、田植えが終わった“泥よこい”（田植えの疲れを癒すための休み）の時期に、古くから行われています。地域によって祭りの特色はありますが、神事後は、ごはんを食べたり、お酒を飲んだりして、秋の収穫を楽しみとした宴が始まります。大きな水害などがなく過ごせているのは、水神様のおかげとも云われています。

水神祭
祭
いろいろ

一

出ル水水神祭



豊岡出ル水地区の出ル水の水源にて、毎年8月上旬に行われます。昭和38年から行われ、平成25年で51回目を数えます。もともとは付近に住む農家の方が、水の恵みに感謝するために行われていたそうです。昔は、水神祭には小浦地区の漁民たちが水の代金として、「魚一荷（天秤棒の両端にかけて、一人で肩に担えるだけの鮮魚）」を提供していたといひます。

三

うどん祭り

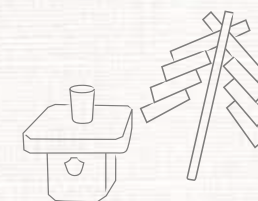
藤原清水地区にある水源にて、毎年7月上旬に行われる行事です。100年以上前から伝わっており、集落の中から順番で2軒の座元（当番）が取り仕切ります。祭りの締めうどんを振る舞うことから「うどん祭り」。昔はご馳走だった豆腐やうどんなどが食卓に並び、今でも地域の人々は賑やかな祭りを行っています。



二

山田湧水の水祭

豊岡山田地区の山田湧水の水源地にて、毎年7月に行われます。当日は、集落の人々総出で草刈りや掃除した後、神主様を呼び、神事を行います。新しく作ったしめ縄をかけて、御幣をあげます。感謝の祈りを捧げたら、水口神社の前にある畳3畳ほどのスペースにござを敷き、お弁当やお酒、お茶をひろげて、五穀豊穡を願います。



湧水は、

自然の美しさのなかにある

山田湧水は、豊岡の自然豊かな山間、フランシスコ・ザビエルが歩いたとされる古道の途中にあります。あたりは水の恩恵を受けた美しい棚田が連なっています。

午前中、水汲み場は多くの人で賑わっています。辺りは、自宅から持ってきた空の容器で一杯です。「多めに汲んどかないと、すぐなくなるからな」

「近所の人にも持っていくんよ」そう話しながら、杵築市から来たというご夫婦は、分担しながら水を汲みます。

石のタイルが敷き詰められた水汲み場は、近づくときひんやりとした空気に包まれており、方々にある4つの管からは、水が勢よく落ちます。

大分市や別府市からも訪れる人は多く、「おいしいのはこの水」と、町外での評判も良いようです。「水の臭いが全然違う」と、ほと



別府から水汲み歴6年。30キロの水で満タンになった容器を乗せて。水のお裾分けありがとうございました



湯布院から来たご夫婦とパールちゃん。近くに住んでいる娘さんの手伝いついでに「しょっちゅうくるよ」とのこと

山田湧水



●山田湧水 MAP P63
日出町豊岡字山田

んどの人がお茶やコーヒー、料理に使用するそうで、クセのない水を求めるリピーターも多数。
水を買うよりも面倒なこともあるんですが、「車で登りやすい」と、交通の便の良さで利用する人も。
水汲み歴は5年から15年と、長年通っている人が多く、手慣れた動きで、水で満タンになった容器を車に詰めていきます。そして、水汲みが終わると車に乗り、坂を下って帰っていきます。と同時に新たな水汲み客が訪れます。空の容器を乗せて。それはもう、ひっきりなしに。
さあ、お次は、観音の水へ。

観音の水

まちの中心に、
名水は湧き立つ

観音の水は、国道10号から小浦交差点を曲がり、高架をくぐるとすぐ右手に見えます。

夕方に訪れてみると、こちらも多くの人で賑やかです。近くを走る電車の音に負けず劣らずの水の音。ドドド、ダダダと小さな滝の音のようです。

「別府に行ったついでにね」と、山香町から来たというご夫婦。仕事の合間に水筒に汲む人もいたり、「気軽に水汲みに行けることが良い」そうです。

この水は、防火用水として、



大分市から2〜3週間に1回来るそう。「水買わないですね〜」。水汲み歴10数年



●観音の水 MAP P63
日出町平道2041番地

地域の人々を守るためにも利用されています。
皆、空の容器を手にし、リズミカルに水を汲みます。それがとても速いこと。1リットルの容器が5秒ほどで満タンになり、水の粒が踊るようにあふれ返すほどです。
さて、井戸端会議という言葉は、「江戸時代の長屋に住む女性たちが、井戸近くで水汲みや洗濯をしながら世間話をする様子」が語源と云われています。
そして、現在の水汲み場にも、人々が集まっておしゃべりする光景がありました。これからも集まる人々に長く愛されるよう、大切にしていきたい「水汲み場」です。

二

山田湧水の水神様

鹿鳴越の険しい山々が連なる麓にある山田湧水の水神様です。棚田の上部に3つの祠があり、明治時代に造られた「水口神社」と表記された水神様と、江戸時代より前から祀られたと云われる水神様が1つ、また、水源へ向かう農道の脇を流れる小川の上にも1つあります。



三 和泉の天満社

和泉という地名のごとく、清い水が湧き出ているこの地域に神社があり、水神様が祀られています。

水田耕作を経済基盤とした町民が、祭りに使用したという小型の土器が池中から発見されており、古来から「水の神＝灌漑の神」として祀り、生活を支える大切な存在として信仰の対象になっていたことがうかがえます。



四 東仁王の水神様

東仁王の水神様の周りには、多くの棚田や果物畑があり、そばには「水元のムクノキ」と呼ばれる、信仰の対象である大木が存在していました。現在は区画整理され、神社の跡地は公民館となり、のどかな田園風景が消えつつありますが、今もなお、水源地からは無色透明な清水が湧き立ちます。毎年欠かさず水神祭が行われ、地域の人々によって大切にされています。



水の神様「水神様」は、水源地や田んぼ、井戸、水汲み場のそばに祀られていることが多く、日出町にも水源地を中心に、数多くの水神様が祀られています。今回は、その内4ヶ所にある水神様を紹介します。地域の人たちの水を守ってくれる大切な水神様ですので、散策中に水神様を発見した際は、どうぞ、そっとお祈りしてくださいね。

一 出ル水の水神様



日出町民の生活用水として多く利用されている出ル水湧水の水神様です。ここから湧く水は、町内で使われる水道水の4～5割をまかなう大切な湧水です。この辺りは昔、うっそうとした森で、その中に不思議な効能がある泉があったそうです。この泉の湧水量は年中変化がなく、しかも一分間も足をつけられぬほどの冷たさであったといいます。

また、泉の中央に亀形の大石があり、その石の上に水天宮の祠があったといいます。地元の人の話では、水源地付近には古い歴史を感じさせる文字の刻まれた石造物があったそうですが、水源地造成でその存在も分からなくなったということです。古くから貴重な農耕用水として四方に通水され、山の水は海沿いの住民の暮らしまでも潤していたと云われています。



日出の湧水が出来るまで

転入者が日出町を選んだ理由に、「飲み水がおいしいから」と言うのをよく耳にします。人々を惹きつける「おいしい水」は、日出町の豊かな自然が生み出した恵みの水です。江戸時代に徳川将軍に献上された「城下かれい」が味わえるのも、日出城下の海中から湧き出す真水と海水が入り混じり、豊かな漁場が育まれるからなのです。

5 地表に湧き出す

城下かれい

日出の地形が育む
ミネラルを含む豊富な湧水

ミネラルウォーターを購入することなく、おいしい水の恩恵を受けることが出来る日出町。

「名水」と呼ばれる湧水が豊富な場所は、雨量の多い山岳地帯に集中することが多いのですが、日出町は瀬戸内式・小雨気候域に近く、雨量は決して多くありません。しかし、山田湧水や法華寺湧水など多くの場所から名水が湧き出ています。

大きな川もない日出町になぜ湧水が多いのか、なぜ「おいしい水」と呼ばれるのか、日出町の湧水が出来るまでをちょっと調べてみました。

鹿鳴越連山に降り注ぐ雨。地下に浸み込み、長い年月を経てミネラルを含んだ良質の水となつて町内の至る所から湧き出ています。

雨水そのものにはほとんどミネラルが含まれていませんが、山肌を覆っている腐葉土の分解によって

生じた二酸化炭素（炭酸ガス）を溶かして炭酸水になります。この炭酸水が岩石や土壌と化学反応をおこし、水中に岩石に含まれるミネラル（カルシウムやナトリウムなど）を取り込みます。

ミネラル成分量のみで水のおいしさが決まるわけではありません。他にも年間を通じてほぼ一定の低い水温や、飲みやすい軟水であることなど、日出町の水は「おいしい水」と呼ばれる条件を兼ね備えているのです。

まちの人々には水に感謝し、大切にする気持ちが古来より生活に根付いています。湧水がある場所には水神様があり、その苦むした水神様の周囲は綺麗に掃除され、花が掛けられ、大切にされている様子がうかがわれます。

自然の恵によって作られた水。田畑を潤し、人を潤す水に感謝し、大切にする人々の生活がそこにあります。

1 雨が降る

2 地下に浸み込む

3 腐葉土の分解によって生じた二酸化炭素（炭酸ガス）を溶かして炭酸水になる

4 炭酸水が岩石や土壌と化学反応をおこし、岩石に含まれるミネラルを取り込む

鹿鳴越連山



辛さ控えめの自家製カレーを使った「カレーパン」120円。ほんのり甘いふわふわのパンはぶどうの樹ならではの優しい味で、子どもからお年寄りまで食べられる。福神漬けの食感が面白い



上：ポテトフランス120円 下：ポテト&ベーコンチーズ130円。それぞれ柔らかめのフランスパン生地を使った人気商品

元々は愛知県でカップ麺等の容器を作っていたご主人。別府市の老舗「友永^{ともなが}パン」での修業中に、自分でもおいしいパンを作ってみて、思ったのがきつかけで、賑やかになり始めた日出町に、3年半前お店をオープン。

町内の鈴木養鶏場の卵を使った生地はふわふわで、どこことなく懐かしい味。店頭に並ぶほとんどのパンが柔らかく、そのため子どもやお年寄りも多く訪れる。人気商品「ポテト&ベーコンチーズ」が食べたくて、夢にまで出てきたというお客さんもいるのだとか。

また、珍しさも売りの、生クリームが入った冷たいパンがあり、甘さ控えめで女性に人気だそう。

優しくて懐かしくて温かい



パン工房 ぶどうの樹 MAP P62
〒901-8523 日出町川崎 252-3 ☎ 0977-72-7776
営業 7:00～18:00 休 日曜・祝日 店舗前に数台あり

ほとんどの惣菜・菓子パンが90円～140円と安価で、お財布にも優しいのが嬉しい



わたなべまさゆき 渡邊正幸さんと奥さんの妙子さん。妙子さんの出身地・愛知県で出会ったそう



ひじ産イロイロ

穏やかな気候と穏やかな人々が育む、ひじまち産まれのおいしいものや素敵なもの。そんな、たくさんの“ひじ産”をイロイロとご紹介。今回は、地域の野菜・水・おばあちゃんのぬくもり…。色んなひじが詰まったまちのパン屋さんです。





関東へ引っ越
されたお客さ
んからの感謝
のお手紙



バーナーで表面を
こんがり。普通と
はひと味もふた味
も違う「キャラメ
リーゼのフレンチ
トースト」 150円

「クリームパン」、8時間かけて炊き上げた自家製あんが自慢の「香ばし炊きあんぱん」。両方とも100円で買えるというのも有り難い。他にも伊東夫妻の息子さんも大好きだと言う「カリカリふわふわのメロンパン」120円などがある。

また、地元で有機栽培を行う「青井農園」のケールを使った「ケールのロールパン」や、旬の野菜を使ったパンなど、健康を意識する人には嬉しいパンも数多く並ぶ。ときには店頭で新鮮な野菜を販売することもあるのだそう。

アレルギー対応のパンもあり、アレルギー持ちのお子さんがいる方から喜ばれたり、お礼の手紙をもらったりすることが何よりも嬉しいと奥さんの緑さん。

また、店内は広々としたイタリアンデザインのオープンキッチンで、プロのパン作りを目の前で見ることが出来るので「是非見に来てください」とのこと。



上：生ハムとアスパラ260円 右下：ケールのロールパン60円 左下：くるくるチョコ160円



Giornos Bread & Deli MAP P62
 〓 日 出 町 3889 グリーンコーポふじの1階
 〓 0977-72-8874 〓 8:30~16:00
 〓 木 曜 〓 20 台

店内にずらりと並ぶバラエティ豊富なパンたち。その数なんと約40種類もあり、選ぶのに目移りしてしまう



ご主人の浩さんと奥さんの緑さん。息がピッタリのお二人が手際よくパンを作る姿を見ているだけで楽しい



愛情と気合いを込めたことんふわふわブリ
オッシュ生地に、新鮮玉子をたっぷり使ったカ
スタード入り「ふわとろクリームパン」100円

体がよろこぶ
愛情たっぷりのパン

通りに面したマンションの1階にあるスタイリッシュな佇まいの「Giornos Bread & Deli」。

店内に入ると、パンを抱えて微笑む、伊東さん一家のイラストが目に入る。ご夫婦のイラストは、お客さんが描いてくれたもので、店内を温かい雰囲気になっている。

ご主人の伊東浩さんは15〜16年ほど大分市や豊後高田市のパン屋で務めた後、7年前に独立し、こちらのお店をオープンしたという。

おすすめは、県内のグルメプロガーたちが大絶賛の「ふわとろク





一見パン屋さんには見えない、可愛らしい一軒家。入口を見逃さないように

愛犬“ぼん”の話を美鈴さんの優しい笑顔から、深い愛情が伝わってくる



め、「ここから離れられないわあ」とにっこり。

そんな友人の1人から「一緒にパン屋をやろう」と誘われた美鈴さん。結局、その話は立ち消えてしまったが、元々パン作りが好きだったこともあり、一人でのんびりやろうと自宅の横でパン屋を開くことを決意したという。

美鈴さんイチオシの商品「塩ぱん」は塩麹と玄米などで作られた至ってシンプルなもの、卵、バター、砂糖は一切使っていない。そのため、卵アレルギーの子どもでも食べられると、お客さんから喜ばれ、赤ちゃんの離乳食としても利用されている。地元の人たちからも大人気で、お昼前に全て売り切れてしまうこともしばしば。取材時にもパンの予約電話が数回かかってきていたことから人気のほどがうかがえる。

味はもちろん、美鈴さんの人柄に、何度も通いたくなるパン屋さんである。

上:塩麹と玄米を使った「塩ぱん」3ヶ入り 120 円。シンプルで素朴な味なので、サンドイッチ用としても。下:甘酸っぱいレーズンと香ばしいくるみのパランスが絶妙な「クルミレーズン」530 円



店頭に並ぶパンはどれも昔ながらの懐かしい味。置かれているオブジェも日出産のものが多く、郷土愛が感じられる



どう見てもゴールデン・レトリバーには見えない犬のイラストに思わず顔がほころぶ、美鈴さんのご主人作のショップカード



パン工房 ぼん MAP P63
 日 日出町豊岡6434 ☎ 080-5280-5306
 図 10:00～19:00 休 月曜・火曜 店 舗 付近に数台あり



おすすめは「玄米食パン」1.5斤 480円。すぐに売り切れる人気商品のため、予約がおすすめ

美鈴さんの笑顔もごちそう
 気持ちいがほっこりするお店

店名にもなっている「ぼん」とは店主・末政美鈴さんの今は亡き愛犬ゴールデン・レトリバーの名前。看板やショップカードの他、お店の至る所に「ぼん」と思われるイラストや写真が並び、嬉しうに「ぼん」のことを語る美鈴さんと話していると、居心地の良さについてい長居してしまう。

町内の山間集落から、海を望むこの地に嫁いできたという美鈴さんは、こちらの海や夜景を見たとき、あまりの美しさに感動したそう。今ではまわりに友人が多いた



お揃いの帽子だとチームワークも増します。婦人会のみんなで「ハイポーズ」。右から2番目が白水さん



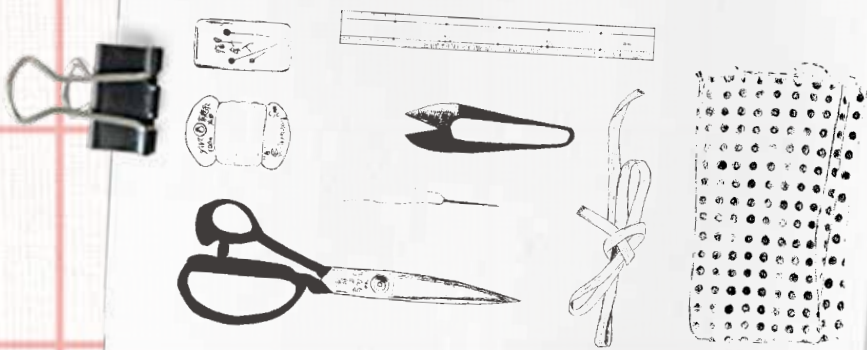
お母さんの手仕事 1

「手ぬぐい帽子」

豊岡婦人会の皆さんがお揃いで被っているのは、婦人会の一員白水さんが、手芸サークルで作ったという「手ぬぐい帽子」。メンバーへプレゼントしたところ大好評で、それ以来、皆で被るようになったのだとか。今回、見た目も可愛らしく実用性もある「手ぬぐい帽子」の作り方を、白水さんに教わってきました。

用意するもの

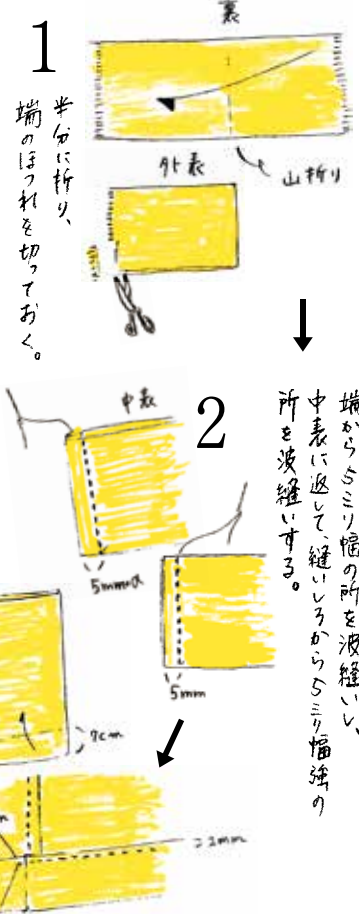
手ぬぐい(1枚)、針、糸、0.5mm~1cm幅のゴム(60cmくらい)、断ち切りばさみ、糸切りばさみ、定規



※ゴムの長さは日本人女性の平均頭囲55cmを基準にしています



手ぬぐい帽子の作り方



入れ込むゴム幅に合わせて、ふり縫いしろから、ゴムが入るくらいに開けて波縫いする。

3 裾から7センチの所を折り、5ミリ幅の所を波縫いし、ゴムを入れる所、15センチ程あけて開ける。



5 反対側をぐし縫いして絞り、糸を回して留める。



特集 3

ひじ暮らし

日出のまちとの向き合い方

日出町は小さなまちですが、
そこに住む、訪れる人々は
自分の個性や好みに合わせて
思い思いの時間を過ごしています。

海・山・水・歴史・地形…

挙げれば限らない日出のまちの魅力。

まちと人がそれぞれの個性を生かし、

上手に向き合って

ひとりひとりが自由に楽しむ。

日出のまちとの向き合い方。

ほんの一部ですがご紹介しします。

1日を感じているって

大切ですよ

陶作家 小林陽子さん

雨上がりの午前、青々と葉が生い茂る果樹園のそば、小高い丘の上にある小林陽子さんのアトリエを訪ねました。

別府市に生まれ、幼少の頃から京都で育った小林さん。絵を描くのが大好きで、高校、大学と美術・陶芸を学びます。2000年に祖母が住む別府市へと戻り、画廊スタッフとして働きながら作品を作ります。その後、両親の定年退職をきっかけに、日出町の景色に惹かれ、一家揃って移住し、本格的に作家活動を始めます。

アトリエは小さな平屋の家で、

自宅の作業場とは別に、ギャラリーも兼ねた作業場を探していたところ、一目惚れして決めたそうです。

改装中の室内には小林さんの作品が並んでいます。小さなオブジェはほつとするような優しい色合いで、手に取るとざらりとした独特な手触り。小林さんの繊細な手仕事伝わってきます。

「気持ちいいでしょう。白い格子窓から望む景色、すごく好きなんです」

ラフランスのオブジェ、「青銅器っぽい色合いを出したいなと思って」。フォルムが美しい



遠くの山、近所の果樹園、目の前には季節の花々と、主張し合わずにお互いがなじみあう景色が広がっています。まるで窓枠は額縁、景色は絵画、自然の中にある美術館のようです。

「近所さんは優しい人が多く、恵まれているとのこと。」

「大家さんが『あなたの好きなように楽しんでね』と言ってってくれて」と、安心して活動が出来ることに嬉しそうです。

自宅はアトリエから車で10分。

「海に近いこともあり、両親の楽

しみは貝堀りです。とくにマテ貝。

塩を入れて、ぴゅつと。砂から出てくる様子が楽しいらしくて。それと畑仕事かな。引越してから野菜をほとんど買わなくなりました」

今はじゃがいもや玉ねぎなどを作っているそうで、「海の近くの庭付きの家を探していた」小林さん一家は、希望通りの環境に心から満足している様子です。

「おだてているわけではないのですが、日出町は暮らすのにちょうど良く、住む人が楽しめるまちなところがいいです。最近では、少しずつカフェやパン工房などもオープンしているの、穏やかな生活をした人にお勧めです」

都会に住む友人や町外でものづくりをしている人に、「緑が多いし、住みやすそう」とか『行ってみたい場所』と言われる」のだそうです。

地形が南向きの日出町は、夕日が落ちるまで、町中をあたたかい空気が包みます。

「朝日も夕日も見ることが出来るんですよ。一日を感じるって大切ですよ。朝日を見なきゃって、なるべく朝早く起きてカーテンを開けています」

自然とともに暮らし、日々の出来事や人との出会いを楽しみ、こころ豊かに生活されている小林さんは、うらかな笑顔を見せてくれます。

ハミングのような音楽が流れる中、手作業で塗っている白い壁を眺め、微笑みながら言います。

「アトリエのオープンには夏至の日を予定しています。夏至って好きなんですよね」

本格的な夏が始まるとともに、日出町にまたひとつ爽やかな風が吹き始めそうです。



Atelier Tone (アトリエ土音) MAP P62

〒日田町川崎 4330-12

☎ <http://kobayashiyoko.blog.fc2.com>

☎ 午後から日没くらいまで ☎ 不定休 ☎ 有



アトリエがある丘の下にはクワイフルーツ畑が

かりませんでした。
そんな時、光則さんがインター
ネットでこの土地を見つけたま
した。ふたりがよく通っていたレ
スランの近く。「ロケーションも
含めて、そのレストランが好き
だったので、見つけた瞬間『あそ
こじゃない?』って話して、下見
に来た日の帰りに決めちゃいま
したね」と話すふたりは、色々と当



自然素材を使った焼き菓子は真由美さんお手製

時のことを思い出すのか、顔が輝いていきます。
この場所でオープンして、今年の8月で1周年。最初に相談した貸別荘を営む友人に「宿泊業っていい仕事だよ」と、言われていた真由美さんは、お客さんと触れ合ううち、その言葉が「本当だな」と感じたと言います。
「まだ1年経たないのに、既に3回も泊まりに来てくれたお客さんもいるんです」
「広島から幼稚園の卒園旅行だと言って、子どもさんとお母さんの2組がお泊りになったり、大学生の娘さんの卒業式のために、ご両親と高校生の弟さんが泊まられたり。仲の良いご家族の姿が微笑ましいんですね」と、毎日が素敵な出会いの連続だそうです。
お客さんを迎える日は、天気も気分になるという光則さん。「せっかく来てもらったんだから喜んで



アメリカンコッカースパニエルのルーくん

もらいたい。のんびりして、楽しい時間を過ごしてもらえたら嬉しい。インターネットも取って繋いでいないので、仕事を忘れて息抜きしてもらいたいですね」
「57歳で新しいことを始めるのは遅いかな?なんて思いますが、まだまだ、やりたいことがいっぱいあるんです」。木工好きの光則

さんは、宿を始める前に京都まで木工の勉強に行ったそうで、今ではスタジオ脇のギャラリーで作品の販売を行っています。
「こんなに器用だとは思ってなかった」という真由美さん。
「商売としてはまだまだなんです」が、「...」というふたりですが、訪れる人がはっと出来る宿を少しずつ形にしているということです。



海を望む南向きの斜面の上にある宿「Casa del viento」は、軸丸光則さん・真由美さん夫妻がふたりで営んでいる客室1部屋だけの小さな宿です。
自然の中でゆったりと過ごす暮らしに憧れていた光則さんは、田舎暮らしを紹介するテレビ番組を放送開始当時から欠かさず見ていたほです。会社で早期退職者を募っていたところ、やりたいことを始める良い機会だと思って、すぐに手を挙げたといいます。
「ちょうど震災が起こったとき

で、仕事のことや今後の人生のことを考えました。色々とやりたいこともありましたしね」
57歳で勤めていた石油会社を早期退職し、真由美さんと2人で写真スタジオと宿をしようと決めるから、場所探しが始まりました。
「自分たちの家から電線が見えない場所がいい」というのがふたりの希望。当時、湯布院を中心にブライダルカメラマンとして活躍していた真由美さんは、貸別荘を営む知人から情報を得て物件を探しますが、簡単に理想の場所は見つ

カサ デル ビエント
Casa del viento オーナー
軸丸光則さん・真由美さん

自分たちの家から
電線が見えない場所を
さがしていただきました



Casa del viento
〒日出町大神瀬の上 4410-2
☎ 0977-72-5136
☎ 一泊素泊まり1人 6,000円 (朝食は別途500円)

MAP P62

で、久々に人の目を気にせず、海を見て過ごす時間が持てたといえます。

「ここでの時間はとても音楽的な時間でした。テラスにはうぐいすたちの鳴き声が聞こえてきます。そして別の場所からは『トン・トン・トン』と誰かが家の補修をしているような、金槌をたたく音が聞こえてきます。その音は何かを生産しなければならぬと、急いでいるのではなく、ゆったりとしていて、作業を楽しんでいるような音に聞こえました」

練習会場までおよそ35kmの道を通う毎日でしたが、長いと思わせない景色があったから、楽しかったといえます。

「海とか水とか、生きていることを再確認しました。毎日、船を見ながら何の魚をとっているのかなと思っていたよ」と漁船を指さして、奥さんと微笑み合いました。



ステファノ・マストランジェロさんと奥さん



軸丸夫妻が「老後の楽しみ」だという宿泊客の感想ノート



ゆったりと過ごせる客室



オーナー光則さんの木工作品

「夢が見られるまち」

Casa del viento 宿泊客

指揮者 ステファノ・マストランジェロさん

初めて日出町を訪れて、海が見える宿に1週間滞在したというステファノ・マストランジェロさんは、日出町の印象を「夢が見られるまち」と語りました。さらに「(自然が)芸術的な美しさを残している。大切にされたこれらの景観はシチリアやナポリに繋がる」とも話しました。

ステファノ・マストランジェロさんは、イタリア・ローマで音楽一家に生まれ、現在、指揮者として世界中で活躍しています。今回は、別府市で開催されるイタリアンオペラの指導者として招かれました。練習会場や公演が行われるのは日出町の隣の別府市や、さらにその隣の大分市でしたが、今回、

指導する生徒の1人が「滞在中にゆったりと過ごしてほしい」と、軸丸夫妻が営む宿に招待してくれたのだといいます。

ここに滞在した感想を「予期しなかった喜びでした。天気や気温によって、山が見えたり隠れたり…。昨日の夜は見えていた山が、翌朝にはまるで何かに食べられてしまったかのように霧の中に隠れてしまつたりと、自然が持っている魔法の力を感じさせてくれる場所でした」と語ります。

指揮者という仕事柄、オーケストラのメンバーや歌手など、たくさんの方に囲まれていて、常に人間を見ている・見られている状態が続いていました。ここに滞在し



湾を見渡せる コースが面白い

ノルディックウォーキング
インストラクター
林弘美さん

前日からの雨が上がり、薄雲の隙間から太陽の光が射しこむ、日曜日の朝。日出町の城下海岸で、13名の参加者が円になって準備体操をしています。

です。月に4回、定例会として、大分県内をはじめ熊本県などでノルディックウォーキングを行っています。この日は初めて日出町のコースに挑戦しました。

スキーの選手が夏場に雪のない山などを歩くトレーニングとして、フィニッシュで始まったそうです。「国と学校、医療機関やスポーツメーカーが協力して行った健康増進法で、幅広い世代の方が参加しているんですよ。」

大分市出身の林さんの日出町の印象は「東京在住だったので、里帰りのとき、空港から帰る途中に通り過ぎるところという認識で…」。



クラブのメンバーと林弘美さん(写真手前右)



一昨年から、大分市にUターンし生活しているものの「あまりよく知らない」という印象は変わらないままだったそうです。

あるとき、日出町にある築100余年の商家跡で「おくだ市」というマルシェを主催する友人に「いいコースがあるよ」と紹介されたのが、城下海岸遊歩道と呼ばれる別府湾沿いのコースでした。

「初めて案内してもらった日は天気が良くて、湾全体が綺麗に見渡せたんです。その日の午前中、湾の反対側にある高崎山に登ったのですが、『さっきまで、あそこになっていたんだ』って、なんだか感心してしまいました」

城下海岸遊歩道は、中学生のマラソンの授業や地域の人のジョギングコースとしても利用されており、朝や夕暮れには健康を意識する人々が行き交います。

「フラットなコースで参加者を選ばないし、途中にトイレもあるし、車道と歩道が分かれていて歩きや



絶好のロケーションで記念撮影

すい。4本脚で歩くノルディックウォーキングは、膝や腰の負担を軽減するのですが、クッションとなるカラー舗装がしてあるので、なお良いですね」「景色もさることながら、国道から一本入っただけなのに静かなのも気に入りました」。

県内在住が多数を占めるクラブメンバーも「こんな場所があるなんて知らなかった」「もっと知らせた方がいいよ」「いいところがあるのに、広く伝わっていないなんてもったいない」と口々に感想を話し、写真撮影に興じていました。

友人と美しい景色を見ながら歩き、おしゃべりしながら心も体も健康になる。定例会の後にはおいしいものを食べるのも恒例。楽しみを持って参加するのが、長続きの秘訣だということです。

およそ2時間のウォーキングの後、マルシェで買い物しランチを楽しんでいました。

「奈良に定期的に帰るとなると、
全国になかなかいいところがないし」

岡井宏士さん・八栄子さん

「奈良に定期的に帰るとなると、全国になかなかいいところがないなあ」

自分たちが住みたいと強く思うこと〝〃奈良へ帰るのに便利がよいところ〃という条件で、奈良県出身の岡井宏士さんが全国様々な土地を実際に見てまわり、日出町に住居を構えたのは21年前のことです。「日出町には縁もゆかりもないんやけど、2年間基礎調査したんよ」不動産業を営む岡井さんは仕事のため、定期的に奈良県へ通う必要がありました。九州内から大阪方面へのアクセスが良好であると候補に挙げたのが、福岡市・大分県内の杵築市・日出町などでした。



たくさんの友人が訪ねてくる岡井さん宅

新幹線、飛行機、高速道路などあらゆるアクセス方法を検討した結果、飛行機が使えて、自分たちの生活に一番都合が良いと判断したのが日出町でした。以来21年間、日出町と奈良県の間を定期的に行き来していますが、慣れもあり、奈良県への毎月の出張に不自由は感じないとのことでした。

「飛行機はあんまり好きやないから、緊急のときだけやけどね」
「家からたった7分のところに、高速の入り口があつて、全国の高速道路網に繋がってる。家からの7分の間には渋滞なんてないし、ストレスもないわ」

アクセスはもちろん、環境の良さ、買い物・病院などの利便性も追及しました。「当然、みんな気になるでしょ？」と、大分県に目星をつけてからは、奈良県で大分



まれ、近隣の人向けに天然酵母パン教室を行っており、仲の良い友人も増え、充実した日々を送っているそうです。

「ある意味、すごく豊かな暮らし。わざわざ宿泊料払って遊びに行くような所に、その日の思いつきで行けるし」と、関西の友達を招いて阿蘇や湯布院へ日帰りの旅行を楽しんでいると言います。

「住むにしても、これほど綺麗な町は全国でも珍しい。海あり山ありで細長く広がる町全体が南向きのひな壇になって、雨も多くない。風光明媚って言葉は、日出町のためにあるんじゃないか？ 自分が選んで移り住んだとなると、良いことばっかり言うって思われるけど、実際、あんまり欠点がない。ほぼ無条件でいいって言える」

家庭菜園で過ごす時間が贅沢だという岡井さんは「楽しんでますよ。めちゃくちゃ楽しめる」と日出での暮らしを満喫している様子でした。



県の新聞を定期購読し、情報収集。「隅から隅まで読んだから、地元の人でもよおらんことを、なんでも知ってたわ」。更に、日出町に惹かれた理由が水だそうで、「水がいいから、水道水からして違う。ボウリング水に近いし、そのせいか何食べてもおいしい」と、満足そうに微笑みます。

奥さんの八栄子さんは、25年来の趣味であるパン作りの腕を見込

小田城にある
たこ天神を祀
る祠



豊岡漁港。本当に大だこは、この海から陸に上がったのだろうか…

こ地蔵が祀られています。
しかし、今取りあげた「たこ天神」、記述からはご多幸のために祀られた様子は伺えません。また、祀った石祠は数ヶ所あるようですが、正確な場所が分からなかったり、移築されていたりと、未だに全てが発見出来ません。
さて、都市伝説なのか、謎めいた「たこ天神伝説」。この逸話、これから調査にあたっていきます。

都市伝説なのか?! たこ天神

まず、たこについて解説しましょう。
欧米ではその姿の不気味さから「悪魔のつかい」と云われ、口にしないそうです。反対に日本では末広がりを意味する8本の足を持つため、「多幸^{たこう}」を表現すると云われています。

そのため、たこが多く獲れた地域では、信仰の対象として、たこ神様やたこ地蔵が祀まつられています。しかし、今回取りあげた「たこ天神」、

しかし、今回取りあげた「たこ天神」記述からは、ご多幸のために祀られた様子は伺えません。また、いひまへ祀つた石祠は数ヶ所あるようですが、正確な場所が分からなかったり、移築されていたりと、未だに全てが発見出来ません。

トピック
ひじまち

町内で起こった出来事や
話題にマニアックに迫る
コーナーです!!

ザレジェンドオブタコテンジン
たこ天神伝説

役場の書棚にあった日出町誌をめくっていたところ
目にした「伝説を秘める神仏・たこ天神」の記述。
強烈な印象を与える名称。そして、諸説あるドラマ
チックな物語。謎に包まれた「たこ天神」の全貌を
脚色無しで皆さんにお伝えします。

伝説1 「たこのたたり」

むかしむかし、太田・小田城・島山の村人は、
半農半漁の生活をしていました。太田から島山に
かけての海岸には、たこがたくさんいました。た
こはたびたび陸にまで上がり、田畑の作物を荒
らすのです。あるとき、畑に出ていた村人が逃げ
遅れた子だこをとって食べたところ、2、3日後
にある漁師が太田沖に出漁した際、ものすごい
大だこが現れ、船もろとも海にまき込まれてしま
いました。「これはたたりじゃ」と村人は、たこの
霊を祀ることにしましたとき。

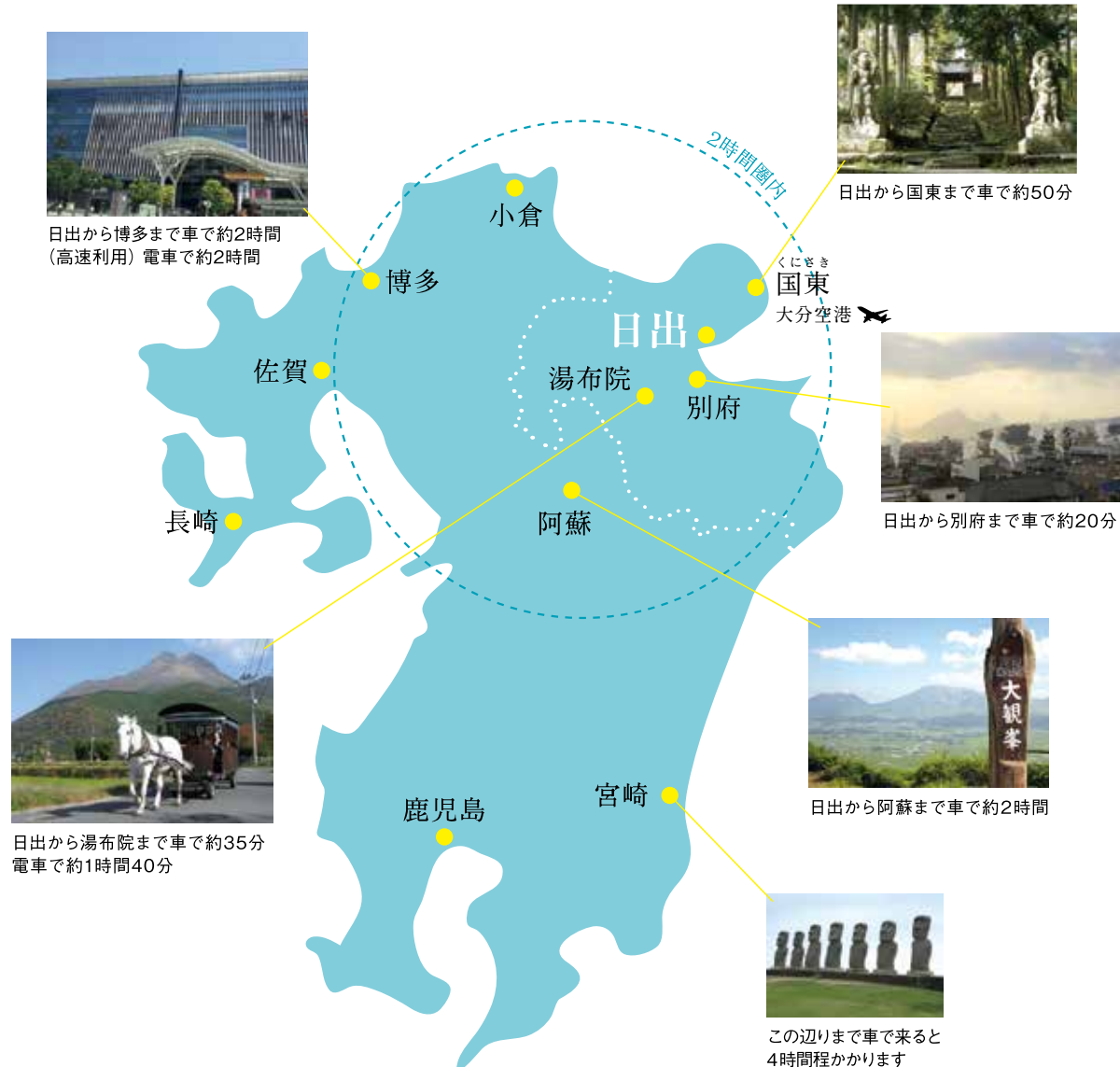
伝説2 「たこの王様と白物」

伝説2 | たこの王様
 うりゅうじま
 むかしむかし、瓜生島が別府湾に浮かんでい
 したもん
 た頃、たこの王様と白物と呼ぶべっぴんな海の
 女神（弁天様のことらしい）が住んでいました。
 島がなくなったとき、たこの王様と白物は、海を
 渡り、豊岡の浜まで歩いてきました。白物は鹿鳴
 越を越えて逃れましたが、後を追うたこの王様
 は、足の数が多いため、思うように歩けません。
 そのうち小田城の畑の上に取り残されて、往生し
 てしまいました。見つけた村人たちは、たこの王
 様を「たこ天神」として祀ることにしましたとき。

※瓜生島… 別府湾に浮かび、一夜にして沈んだとされる島。実在については諸説あり、現在も研究者によって見解が分かれている。
一夜にして沈んだ共通点を持つことから日本のアトランティスと呼称されることもある。

画： 勝 瑞

[およそ2時間で行ける近郊の観光地]



□日出町の交通 お問合せ先一覧

レンタカー (大分空港カウンター)

| | |
|---------------|--------------|
| ・トヨタレンタリース | 0978-67-0007 |
| ・ニッポンレンタカー | 0978-67-3324 |
| ・タイムズカーレンタル | 0978-67-2929 |
| ・日産レンタカー | 0978-67-3151 |
| ・バジェット・レンタリース | 0978-67-1943 |
| ・オリックスレンタカー | 0978-67-3435 |

バス

| | |
|-----------------------|--------------|
| ・大分交通 別府営業所 | 0977-67-1331 |
| ・国東観光バス 杵築営業所 | 0978-62-5411 |
| ・大交北部バス 安心院営業所 | 0978-44-1155 |
| ・コミュニティバス 日出町役場 政策推進課 | 0977-73-3116 |

JR九州

| | | |
|--------|------------------|--------------------------------|
| ・JR九州 | 予約センター 案内センター | 050-3786-3489 050-3786-1717 |
| ・豊後豊岡駅 | | 0977-72-9070 |
| ・湯谷駅 | | 0977-73-0800 |
| ・日出駅 | | 0977-72-2730 |
| ・大神駅 | | 0977-73-1008 |

タクシー

| | |
|-----------|--------------|
| ・いわおタクシー | 0977-72-2221 |
| ・速見はとタクシー | 0977-72-2001 |
| ・日出タクシー | 0977-72-2017 |

[東京・大阪から日出町(湯谷駅)までのアクセス]

日出町の観光案内所「二の丸館」の最寄駅である湯谷駅までの、主な経路とおよその所要時間です。



東京(羽田)⇔大分 ANA・JAL・ソラシドエア

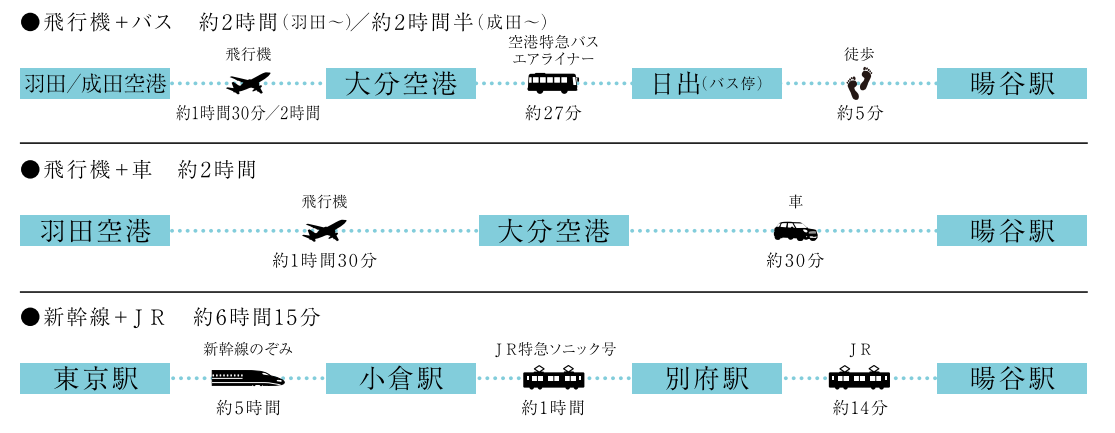
東京(成田)⇔大分 ジェットスター

大阪(伊丹)⇔大分 ANA・JAL・IBEX

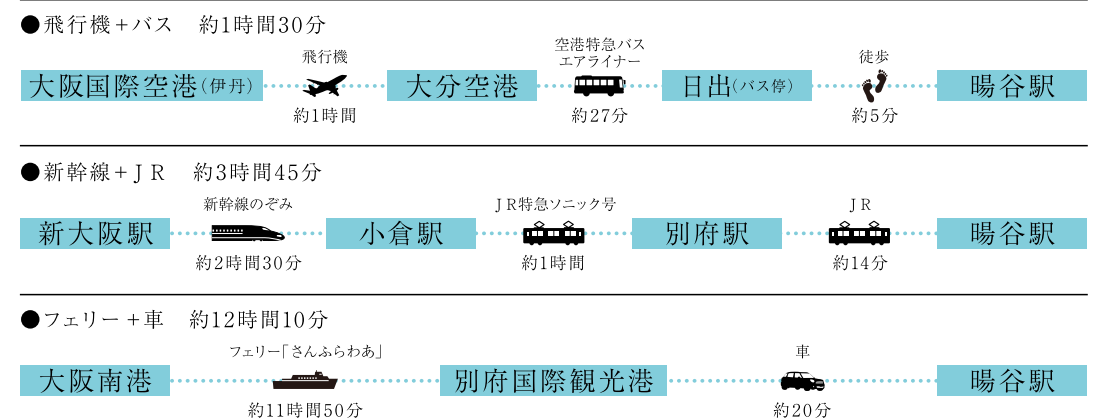
名古屋(中部)⇔大分 ANA・IBEX



□東京から日出町(湯谷駅)



□大阪から日出町(湯谷駅)



ひじ暮らし、考えてみませんか？

自然が豊かな日出町ですが、都会の人が思う“自給自足の田舎暮らし”だけではなく、交通の利便性を生かして大分市や福岡市方面へ通勤するなど、生活スタイルも様々です。
1ターンの若い夫婦の移住者が多い町だからこそ、都会暮らしも田舎暮らしも楽しめる人々が多いのです。中には、休日や長期休暇の間だけ日出町に暮らす人もいます。そんな「日出町で暮らしてみたい」と考える皆さんのために、気になるまちの様子をリストにしてみました。



恵まれた自然環境

災害が少ない

梅雨時期に雨量が増えるため、年間平均雨量は1,600mm前後と比較的雨量の多い地域となりますが、大きな河川がないため、洪水、土砂崩れなどの水害は少なく、積雪による被害も少ないです。

暖かい気候

瀬戸内海型気候区に含まれ、年平均気温は14℃前後と温暖です。また、南向きのなだらかな地形のため、一日中陽のあたる町です。

登山に釣りに

別府湾や大分市・別府市を望める景観の素晴らしい山が連なっています。また海岸には、アジやチヌ、アラカブなどが釣れる釣り場もあります。
・おもな山岳…セツ石山、経塚山、板川山、百合野山、古城山、城山
・おもな釣り場…豊岡漁港、日出漁港、大神漁港



楽しむ生活を

買い物は町内で

中心部には、スーパーマーケット、商店、コンビニエンスストアはもちろん、ホームセンター、衣料用品店など各種揃っています。道路沿いの無人販売も楽しい。

海の幸、山の幸

自家農園、釣りなど、田舎ならではの幸が豊富です。大神深江漁港では朝の7時半から朝市が行われ、お得な価格で魚介類を購入出来ます。

地産地消の飲食店

お仕事帰りに「ちょっと一杯」の居酒屋や、休日を家族で過ごすカフェ、地産地消の割烹料理と、様々なジャンルの飲食店があります。

上下水道料金の安さは、大分県内第2位！

20トンまでの利用（4人家族の平均使用量）で水道料金1ヶ月2,100円で使えます（平成24年4月1日現在）。

一家に1つ、農園はいかがですか？

農業への理解を深めるために開設した「日出町ふれあい農園」は全20区画あり、季節折々の野菜や草花の栽培が楽しめます（受付期間内の申込による）。

まちの小学生と国際学生との交流

立命館アジア太平洋大学（別府市）は、世界中から様々な学生が留学しており、日出町の小学生との異文化交流を行っています。
春は花見、夏は七夕、冬はクリスマスと、年間を通して様々な行事に参加したり、田植えや稲刈り作業を行うなど、地域に根付いた交流が育まれています。



子育てしやすい

両親学級

子育てについてのお話や、妊婦体験・沐浴体験などを行い、赤ちゃんのいる生活のイメージを持ちやすくします。

お母さん教室

妊娠・授乳期の食事・お産について、ゆっくり聞いたり話したい方、他の妊婦さんと交流されたい方におすすめの教室です。

こんにちは赤ちゃん訪問

日出町に生まれたすべての赤ちゃんのお宅を保健師や助産師が訪問し、心のケアを行います（産後うつスクリーニング）。

ブックスタート事業

4ヶ月児健康診査のときに、親子で楽しい時間がもてるように、絵本の読み聞かせをし、絵本をプレゼントします。

ホームスタートひじ

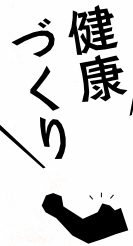
6歳以下の未就学児がいる家庭へ訪問し、先輩ママが話し相手になったり一緒に出かけたり、フレンドシップを主とした子育てのサポートをします。

母子の相談はひとつの窓口で

母子保険、児童福祉など、母子に関する窓口が1ヶ所（福祉対策課）となっているため、移動することなく相談できます。

学校・保育施設

保育園認可7ヶ所・認可外2ヶ所／幼稚園7ヶ所／小学校6ヶ所／中学校3ヶ所／高等学校1ヶ所／支援学校1ヶ所／児童館3ヶ所／放課後児童クラブ5ヶ所



健康づくり

日出町保健福祉センター

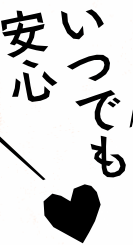
人気のジョギングマシンやバイクマシン、本格的なトレーニングマシンなどを設置しています。トレーニング利用料金は、町民であれば1回200円、12回券だと2,000円とお得です。また、65歳以上の町民であれば無料で利用できます。土日祝日も開館、月～土曜日は夜間も開館しています。

糸ヶ浜海浜公園

ビーチバレーに海水浴、テニスなどで汗を流し、バーベキューも楽しめます。日の出や海を望めるキャンプ場も併設。

スポーツ施設・レジャー施設が充実

公園は13ヶ所、他に体育館、柔剣道場、弓道場、グラウンドなど、健康づくりに役立つ施設が豊富です。



いつでも安心

救急患者も安心な医療体制

日頃の治療や万一の入院でも安心な各種の医療機関が充実しており、救急を要する場合の受け入れ態勢も整っています。

防災行政無線を整備

万一、津波や地震が起きた際でも、24時間体制で防災情報を迅速に伝えるシステムが、沿岸部を中心に整っています。

緊急通報システム『愛ことば』の無償貸与を実施

緊急通報システム『愛ことば』は、高齢者のみで暮らしている方や障がいのある方が、急病や事故等の緊急時に必要な措置を受けられるように、24時間体制で「受信センター」の専門スタッフが対応しています。「受信センター」では、必要に応じて事前に登録した協力員や関係機関に連絡を行います。



交通の便が良い

移動手段はいろいろ

公共交通機関はJRとバスがあります。駅周辺や中心市街地は整備された平坦な道が多く、自転車での通勤・通学・買い物が可能です。自動車があるとより便利です。

近距離に空港・高速インター

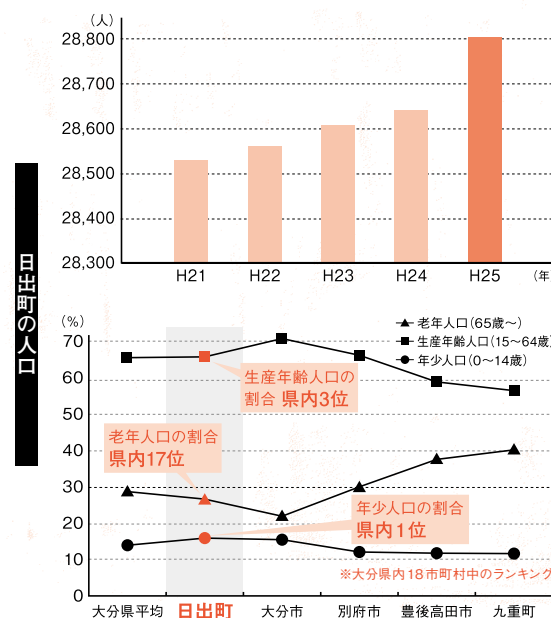
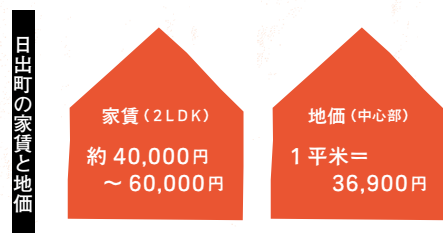
空港まで車で約30分以内、高速インターまで約15分以内と、出張・旅行へ行くにも便利です。

町内専用のバス

公共交通の他、コミュニティバスがあります。略して「コミバス」は、定時定路線と、要望に応じて運行を行うデマンド運行路線があります。

日出町の人口と家賃・地価相場

日出の家賃相場は2LDKで約40,000～60,000円。地価は日出中心部で1平米＝約36,900円。転入者の世代は幅広く、リタイア後の悠々自適な生活を送る人のみならず、静かな環境で子どもを育てたいという若い世代も多いのが特徴です。また、賃貸物件だけでなく、宅地造成も進められています。家庭菜園付きの1戸建ても夢じゃない！



日出町 MAP



交通の便がよい日出町

大分自動車道と大分空港道路、そして国道10号線と国道213号線など主要な道路が交わる日出町。また、小さな町にも関わらずJRの駅が4ヶ所もあり、車でも公共交通機関を使っても、どこに行くにも便利な町です。

近隣市町村への通勤通学はもちろん、休日ちよっと足を伸ばしての日帰り旅行など、移動も快適。大分空港道路は日出⇄大分空港間が無料です。

町内にある各駅はレトロなものが多く、湯谷駅を除いた3つの駅は100年以上の歴史があります。各駅に降り立つと、駅舎のみならず周辺の風景もそれぞれ魅力的な特徴があり、鉄道ファンの撮影スポットとなっています。

日出町を訪れた際は各駅で下車してのまち歩き、車を利用してのドライブなど、楽しみ方は様々です。



おすすめスポット: 真那井のホテル、大神ファーム
駅の特徴: 目の前の竹林から鳥の鳴き声が響き渡る

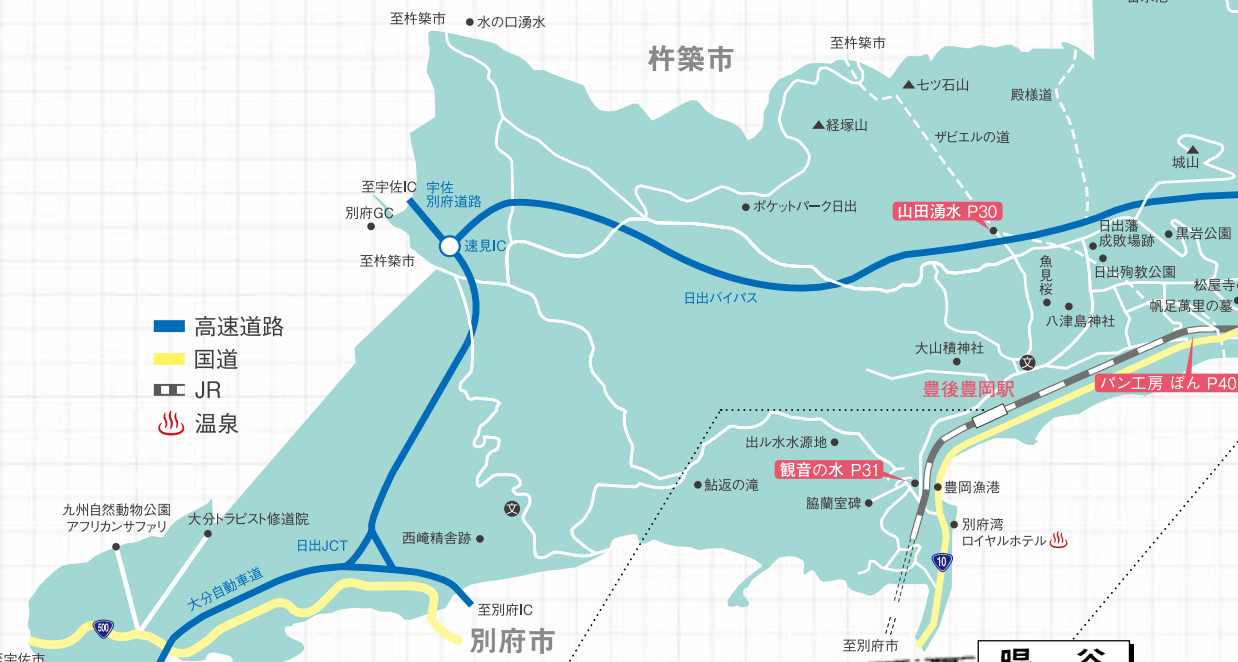
挨拶や声掛けは欠かせないという鉄道一筋45年の石井さん。顔なじみの学生の卒業式に「今までお世話になりました」と鉢植えをもらったことがあるそう。石井さんの温かい人柄がうかがえる。

駅員：石井良一さん

大神
o g a

駅長・駅員さんに聞きました

日出町にお越しの際は、是非4つの駅にお立ち寄り下さい。駅長・駅員さんが笑顔で迎えてくれます。地域の魅力や面白情報を教えてくれるかも…



おすすめスポット: 町の有形文化財にも指定されている「的山荘」、城下かれいを食べられる
普段心がけていること: 丁寧な接客と対応



昨年の4月から駅長として湯谷駅に赴任してきた、日曜大工が得意な阿部さん。駅舎内には、阿部さんお手製の棚があったり、ご自宅から鉢植えを持参して花を絶やさないようにしたりと、そこかしこに阿部さんの心遣いが見受けられる。

駅長：阿部健治さん



駅の特徴: 目の前が海で気持ちがいい
駅員になって良かったこと: 色々な人と話が出来て楽しい



明治44年開業でレトロな駅舎は当時のまま。目の前に広がる景色は圧巻。お客様からご要望があれば、旅行のスケジュールを組むこともあるという三島さん。「行き先に迷ったら是非お声を掛けてください」とのこと。

駅員：三島夕恵さん

日出
h i j i

周辺の環境: 海があり暖かくて気候が良い
普段心がけていること: 特に地元の人に気持ち良く感じてもらえる駅作り



常にきれいな駅作りを心がけているという田原さん。一年を通して楽しめるように季節の花を活けたり、こと細かな気配りも欠かせない。約35年ぶりに一緒に働くことになった同駅員の森田さんのことを「相棒」と呼んでいるのだとか。

駅長：田原国義さん





日出町の主な年間行事

| 1月 | 2月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 10月 | 11月 |
|-------------------------|-----------------------------------|-----------------|---------|---|---------------------------|--------------------------|-------------------------------|----------------------------|
| かせどり まちおこし新春健康マラソン大会 | 赤松山願成就寺 春季大祭・火渡りの行 辻の堂愛宕神社春季大祭 | ひなまつり 回天神社例祭 | 城下かれい祭り | 経塚山と七ツ石山新緑ハイキング（ミヤマキリシマ観賞会） 帆足萬里忌辰祭 瀧廉太郎忌辰祭 | 糸ヶ浜海水浴場安全祈願祭（海開き） ハモ祭り | 糸ヶ浜ビーチフェスタ 日出町納涼盆踊り大会 | 「ザビエルの道」ウォーキング大会 日出若宮八幡社大祭 | 協蘭室祭 ひじ文化まつり ひじ産業まつり |



ひじん本 — 第一集 —

2013年8月8日発行

 日出町 Facebook ページ <https://www.facebook.com/hijimachi>

発行 日出町役場
編集 日出町役場 政策推進課
〒879-1592 大分県速見郡日出町2974-1
TEL 0977-73-3116 FAX 0977-72-7294

送付をご希望の方は、お名前、ご住所、電話番号、希望号数をご記入のうえ、送付用切手（1冊210円分）を同封し、下記までお送りください。なお、送付は1号につき、おひとり様1冊とさせていただきます。ご了承ください。
また、「ひじん本」の感想もお待ちしております。

〒879-1592 大分県速見郡日出町2974-1
日出町役場 政策推進課「ひじん本」係

Thanks
池田利男／勝正光／工藤美鈴／小林弥生／軸丸真由美／渡邊睦子／and 日出町の皆さん（敬称略・50音順）

【読者の皆様へ】
自然に囲まれたのどかな生活環境、手頃な値段で手に入る新鮮な野菜や魚、気が良くておおらかなまちの人たち。素敵なところが多すぎて何から伝えればいいものか悩みました。日出町の魅力を全国の皆さんにどう伝えるか？編集スタッフがまちの方々にひとつずつ教わる中で感じたこのまちの雰囲気、この本を通じて少しでも伝われば…。と願っています。
編集／上田珠真子・久多羅岐仁美 デザイン／大熊博美

印刷・製本 株式会社インタープリント

※乱丁本・落丁本はお取り替えます。
※本誌内容の無断転記、記載、複写はご遠慮ください。
※本誌データは2013年7月30日現在の情報です。
© hijinhon all right reserved